

デーリー東北

2026年(令和8年)3月30日(月曜日) (3)

八戸工業大工学部福士研究室

最前線 研究室の挑戦

実務に近い建築設計指導

八戸工業大工学部工学科建築・土木工学コースの福士研究室では、1級建築士の資格を持つ福士准教授が、より実務に近い建築設計を学生に指導している。

福士准教授は青森市で妻と設計事務所を経営。七戸町にある「南部曲屋育成蔵舎一号蔵舎」の改修を手がけ、2021年度のグッドデザイン賞を受賞している。設計に対する理解や社会的な認知度を

◆八戸工業大工学部工学科建築・土木工学コース「福士研究室」23年開設。建築工事現場の見学やプロポーザルへの参加、改修物件の実測調査など、設計事務所と連携した実務に近い体験を提供。実学的な建築設計の研究を行う。

コンペや工事現場に学生帯同



大学の施設やスタジアムなど学生の感性が光る卒業設計=18日、八戸工業大



ゼミ生が卒業設計を披露した「街中卒計発表会2026」=1月、八戸市の「ばんらぼ」

上げたいという思いから、10年ほど前から非常勤講師として同大で教鞭を取るようになった。23年から准教授を務めている。

研究室の活動では、運営する設計事務所と連携。プロポーザルコンペや依頼人との打ち合わせ、建築工事現場に学生を伴い、実務に近い体験を提供している。「座学だけで

は伝えないのが難しい現場の雰囲気やスケールを感じてほしい」との思いを込めた。

東北地方は首都圏に比べて建築を専門に学べる高等教育機関が少ないため、建築現場の現実性を伴った学びにより、学生の技術向上を後押しする。

同コースの卒業研究は論文か設計を選択することができ

るが、福士研究室では卒業設計に力を入れている。学生たちの作品はスタジアムや映画館などの一建築物にとどまらず、市街地一区画を丸ごとデザインしたものもある。

テーマ設定が多岐にわたる中、重要視するのは「居心地の良さ」。動線、窓の大きさ、設備の高さ…。数字的な指標だけでなく、目には見えない居心地をどう設計、デザイン

したかを評価基準の一つに据える。

卒業研究発表会は同大番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」で実施。一般の人に公開することで、学生に多角的な評価軸があることを実体験を通して学んでもらうとともに、地域の設計に対する興味関心を高める狙いもある。

今後は建築設計に加え、製品や街づくり、場づくりなどさまざまなデザインを対象にしたい考え。「建築設計を理解する人を増やすことで、建物の価値を高め、より良いまちづくりに貢献したい」と意気込む。(向屋敷明)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。